

次の文章を読んで、問いに答えよ。

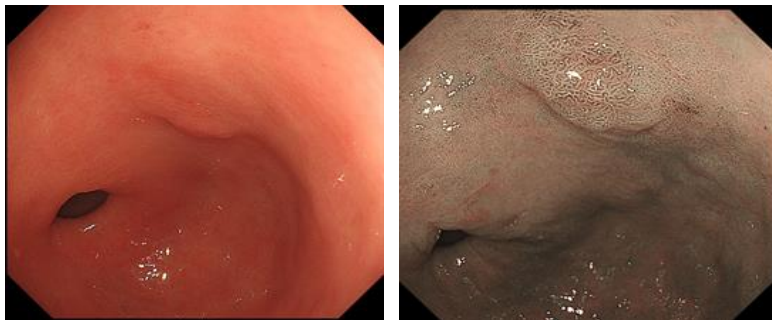
82 歳男性。

前医で行われた早期胃癌に対しての ESD を施行した。フォローのため当院通院中。

身体所見：体温 36.2 度、呼吸数 12 回/分、心拍数 83/分 整、血圧 147/86mmHg、SpO₂96%
(room air)、黄疸、腹水はなし。下腿浮腫なし。

腹部は平坦、軟で圧痛なし。

上部消化管内視鏡像を以下に示す。



問 1. 癌のある部位を選べ

- a.噴門部
- b.胃底部
- c.胃体部
- d.幽門前庭部
- e.胃角

問 2. 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) の絶対適応でないものを 1 つ選べ

- a.2cm 以内
- b.分化型
- c.粘膜ひだの癒合
- d.肉眼的粘膜内癌
- e.潰瘍なし

問 3. ESD の合併症として起きうるものを 3 つ選べ

- a.腹痛
- b.消化管穿孔
- c.術後出血
- d.便秘
- e.鉄欠乏性貧血

解答

問 1 d

問 2 c

問 3 a.b.c

次の文章を読んで、問いに答えよ。

71 歳女性。

肝障害と糖尿病で近医を受診した。2 型糖尿病で機会飲酒、HBs 抗原陰性、HCV 抗体陰性、抗核抗体陰性、抗ミトコンドリア抗体陰性などから非アルコール性脂肪肝炎（NASH）による肝硬変が疑われた。近医にて上部消化管内視鏡を施行したところ RC sign 陽性の食道静脈瘤を認めた。食道静脈瘤治療含めて肝精査目的に当院紹介受診した。

身体所見：体温 35.4 度、呼吸数 12 回/分、心拍数 69/分 整、血圧 117/68mmHg、SpO₂98% (room air)

眼瞼結膜、眼球結膜に異常なし。黄疸、腹水はなし。下腿浮腫なし。

腹部は平坦、軟で圧痛なし。クモ状血管腫なし。手掌紅斑なし。羽ばたき振戦なし。

生活歴：機会飲酒

喫煙はなし

血液所見：赤血球 407 万、Hb 13.0g/dL、Ht 39%、白血球 7,800、血小板 26 万。

血液生化学所見：アルブミン 4.0g/dL、総ビリルビン 2.0mg/dL、直接ビリルビン 0.7mg/dL、AST 125IU/L、ALT 191IU/L、ALP 516IU/L（基準 115～359）

血液凝固検査：PT78%

問 1. Child Pugh 分類の点数は以下のうちどれか

- a. 6 点
- b. 7 点
- c. 9 点
- d. 11 点
- e. 13 点

問 2. 上部内視鏡にて胃には静脈瘤は確認できなかった。検査翌日に患者が突然吐血し、その後意識を消失した。心拍数 95/分、血圧は 78/58mmHg、SpO₂94%であった。今回の一連の入院で治療法として可能性は低いものはどれか、一つ選べ。

- a. 大量輸液
- b. 止血剤投与
- c. 内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）
- d. 内視鏡的硬化療法（EIS）
- e. バルーン閉塞下逆行性経静脈塞栓術（BRTO）

解答

問 1 a

問 2 e

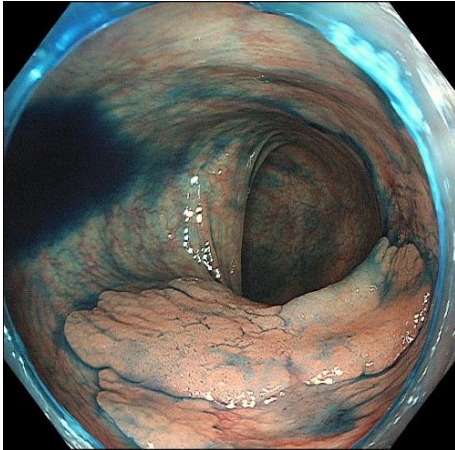
次の文章を読んで、問いに答えよ。

71 歳女性。

検診で便潜血陽性を指摘された。近医にて下部内視鏡検査を施行したところ、下行結腸 30 mm 大の腫瘍病変を認めた。

家族歴：兄が大腸がんで 32 歳で死去

以下に下部大腸内視鏡像を以下に示す。



問 1. 肉眼分類型は以下のどれか一つ選べ

- a. 0 - I 型
- b. 0- II a 型
- c. 0- II c 型
- d. 1 型
- e. 2 型

問 2. 生検を行ったところ、腫瘍の浸潤は粘膜までであった。治療法として最も適しているものを 1 つ選べ。

- a. 下行結腸切除
- b. 化学療法
- c. 放射線治療
- d. 内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)
- e. 内視鏡的粘膜切除術(EMR)

解答

問 1 b

問 2 d